



瀧本 孝一 議員
(遠野令和会)

一問一答方式



各家庭に配布された第2次遠野市総合計画後期基本計画の概要版

総合計画の後期計画と遠野市の将来は

市長 社会情勢の急激な変化に対応する視点で

令和3年度から第2次総合計画の後期計画がスタートするが、前期計画との共通性や違いについて伺う。

暖化対策や国土強靱化の視点を盛り込んだ。

農業の推進、林業振興も課題である。

後期計画の目玉事業や重点施策を伺う。

若者が夢の持てる遠野市の将来像は。

超情報化社会の中で、遠野テレビのネットワークの光化の取り組みも若者が夢の持てる社会につながる。

「産業振興・雇用確保」と「少子化対策・子育て支援」の二つの共通優先方針を柱に、次の2点を重視した。

一つ目は、高度情報化社会や「SDGs」など社会情勢の急激な変化に対応すること。

二つ目は新たな脅威への対応として地球温

4月から「支え合う」を大きなテーマに「小さな拠点による地域づくり」が本格的にスタートする。関係団体と連携した各種施策を盛り込み、限られた予算の中で、環境問題・健康づくり、「AIやICTを活用した農業の高収益化」など次世代

自然・歴史・文化・風土を変えてはならないものとして、次世代に引き継がなければならぬ。超情報化社会の中で、遠野テレビのネットワークの光化の取り組みも若者が夢の持てる社会につながる。

「おの物語の館」の土蔵(伝承ギャラリー)と、市が所有する旧岩銀遠野支店の跡地を有効に活用すべきでないか。



越冬対策としての生活支援ハウス拡充を

市長 事業の趣旨に沿った提供体制の整備が必要

生活支援ハウス運営事業の概要を尋ねる。

60歳以上の一人暮らし、または夫婦のみの世帯で、高齢のため不安がある方に一時的に居住機能と生活援助を提供する事業である。

3月定例会

中心市街地活性化基本計画の総括は

市長 計画した事業は概ね完了

延べ10年間に及んだ本計画は、今年度末で終了するが目標に掲げた3つの成果は。

平成26年度に調査していたが、それ以降調査してこなかったことから早急に再調査を検討したい。

発信基地」として、機能強化することで関係機関と協議の途上にある。

令和元年度の実績は、観光施設の入り込み目標10万人、中心市街地通行車両・歩行者数の目標4,034人、空き店舗の利用目標2件に対し、それぞれ半数程度に留まっている。

「あすもあ遠野」の1階は3年間も利用されていらない。維持管理費も毎年かかっている。早く解決策を講ずべきでないか。

中心市街地の貴重な資源であり、様々な角度から有効利用について検討している。

令和元年度の実績は、観光施設の入り込み目標10万人、中心市街地通行車両・歩行者数の目標4,034人、空き店舗の利用目標2件に対し、それぞれ半数程度に留まっている。

「あすもあ遠野」の1階は3年間も利用されていらない。維持管理費も毎年かかっている。早く解決策を講ずべきでないか。

中心市街地の貴重な資源であり、様々な角度から有効利用について検討している。

空き店舗の現状について

観光の「戦略・情報

遠野みらい創りカレッジについて



佐々木 大三郎 議員

一問一答方式

その他の質問

- 遠野みらい創りカレッジについて

「こども本の森遠野」の課題

市長 課題解決しながら計画通り進める



「こども本の森遠野」本館の模型 (写真右側が一日市通りに面する)

建築家安藤さんのご寄付により、設計から建築まで殆どの費用を賄って頂けると理解していた。しかし本棚や土蔵整備等の予算が次第に追加され2億7千万円まで膨らんでいく。どのような理由からか。

次のステップとして、丁寧に手順を踏みながら構想の実現に取り組んでいく結果である。

財源不足から公共料金の値上げを検討している最中、土蔵整備等の実施は見送るべき。

古民家というコンセプトで、中心市街地に新たな賑わいを目指して進めており、夢と希望が持てるプロジェクトにしたい。

本館整備で十分と認識する。土蔵整備の必要性は何か

本館と土蔵が相まって魅力を生み出すプロジェクトとなった。それが中心市街地の魅力につながる。

3月定例会